

福岡大学医学会
福岡市城南区七隈
福岡大学医学部内
印刷 福岡印刷株式会社
福岡市博多区東那珂一丁目10-15

福岡大学医学会ニュース

孤燈の夢

解剖学 山田 英智



尊敬する大先輩、一昨年他界された金岡丈夫先生に「孤燈の夢」という随筆集がある。先生によると、唐の詩人、戴叔倫の「夜雨孤燈の夢、春風幾度花」という「客中言懷詩」中の句を採られたものという。この語を拙文の表題にお借りすることにした。

多くの人々から「福大に移られて戸惑われることが多いのでは」と聞かれる。もうそろそろ二年近くになるのに、まだその感を懐くことが時々あることも事実で、これは一昨年の春の頃、順応性が低下したことも一因である。最近感じること、二、三のことを記してみたいと思うが、あくまで一般論として読んでいただければ有難い。

君が多いといことは、残念なことである。といふ、大学における勉学は強制によってなされるべきことではなく、あくまで自発的な意志と自らの責任による努力を期待すべきであらう。できれば、単に与えられたメニューによる料理を消化し、〇×式の試験に合格するだけの大学目的になり、さらに最近のいわゆる視覚教育の活用は劇団現代の人々には受け入れやすくも、これでは自分で思考して、物の本質をさぐり求める力や、何が本当のものであるか、何が本質を見分ける力などは出てこないのでは危惧される。

このことは医師養成という役割をもつ医学部の場合に重要である。なぜならば、生涯教育という言葉に明白なように、自らの責任による判断力と創造力が、卒業後医師として一人立ちしてからの生涯要求されるからである。研究者となる場合はさらにいうまでもない。その意味で管理制度で勉学を推進し、手と足の世話をするだけの結果として本人の将来、ひいては国民や社会にとってもマイナスになるのではないかと、しかし、問題の根は深く、大学の方針だけを変えては解決されるものではない。幼児からの教育制度全体と、それを支えている社会構造ないし日本の風土とも密接に関連しているのである。

最近、医師に対する社会的評価は昔にくらべると随分落ちてきており、このことが職業としての医師に対する魅力の低下に結びつき、さらに医学部志望学生の数の減少につながることが心配されている。このような評価の低下は、国民全体の教育と知識の向上や生活程度の平均化などにより、医師を視る眼が違ってきたことも大きな要因であるが、その原因の一つは医師自身が描いた種々の結果ではないかという反省も必要であろう。しかも一方では、医師過剰時代の到来が話題となっており、医師という職業にはきびしい時代にあり、問題を解決するには、自分たち自身で変えていく必要がある。

さて、最近はこの大学の医学部でも、臨床教育の比重が重なるのに比例して、基礎医学科目を教養課程に繰り下げる傾向がみられる。医学における必要基礎知識の最小限の量は、昔も今もそう変化しているとは考えられないが、その上に積み重ねられる必要情報量は、基礎科目でも臨床医学でも毎年増加する一方であるから、昔私共が受けた四年間の医学部教育と同じ年限内に、今の情報量を生きた知識として身につけるためには、よほどの努力が必要なこととは自明のことである。六年一貫教育に切り換えても問題は解決しなかったのは、他学部

ですすでに随分前からいわれる「ハードワーク」問題として存在していた。大内氏はこの問題についても明確な分析をしておられる。すなわちこれは就職口の過剰の結果ではなく、院生の過剰生産の結果であり、問題の解決は院生の大幅な縮減以外にない、大量生産から少数精鋭主義へ転換すべきであるとしている。学問の世界では、学者の量ではなく、その質こそが大切であるからである。同時に、か氏は、問題は実は大学と文部行政にあると指摘することを忘れていない。すなわち、大学院をもつ大学の方が持たない大学より格が上であるという迷信があり、それを予算や教員の給与で助長しているのが文部省で、そのため公私を問わず大学はまたたいて大学院を問わねばならぬ結果となり、必然的にオーバードクターを招来することになったのである。これも日本の風土の産物であるという。

これに関連して、医学部における大学院の奇妙な現状も、いろいろ不利な関係と妥協の上になりに立っており、完く同様に日本の風土の産物といえよう。大学紛争など、争点の一つであった医学博士号ポイント運動も、いつのまにか風化消失してしまっている。大学院本来の目的からみて、あまり関係のないことにその存在意義を認められている。今の医学博士というタイトルは早急に廃止した方がよいと思う。

Grüezi mitemand! 独語として少し聞き慣れない言葉ですが、これは Schweizerdeutsch で「皆さん今日は」という意味です。Hochdeutsch には「Grüß Gott mitemander」があります。



ベルン大学医学部 生理学研究所より

生理学第一 今 永 一成

いづつです。これらの山々の眺めは、Mürren からが絶好です。白銀の雪を踏み、氷河の間に登る雄大な山々を眺めていると、人間の力の及ばない何か大きなものに魅了され興奮するのを覚えます。Verschönerung der Technik mit der Natur といふ Eugen Wylers の言葉を思い出します。十月になると街の本々は紅葉となり、中旬には枯葉が道に積り始めます。これをいつかきれいに掃除してあげるのもスイス人の習慣です。

私は九月から三月の短期海外研修の機会を与えられ、スイスの首都 Bern に来ています。ここには今なお、教会を始め、住居として、商店として利用されている一四一五世紀の建物が残る、人口十四万五千の静かな古都であります。

私は Bern Universität, Medizinisches Fakultät の Physiologisches Institut で研究に従事しています。Institut の長は Director であり、その下に Professor、Privatdozent、7 Assistant がいます。研究に従事する三名の電気機械の Techniker が Werkstatt で働いています。その他 Sabbatical year を利用して常時外国より二三名の研究者が訪れています。ここでは心筋と骨格筋に関する研究が行われています。

ベルリン大学本部

心筋細胞生理学の研究は四五年の間に新しい技術の開発と、膜生理、収縮機構、興奮伝播機構などの分野で著しく進展しています。特に最近の動向は、いろいろな条件下の細胞内 K^+ 、 Na^+ 、 H^+ 、 Ca^{++} 、 Mg^{++} などのイオン活動を測定する $micro-electrode$ 、 $fluorescence$ などのイオンチャンネルの性質の究明であります。この中でも心筋細胞はこれらと取り組んでいます。私は一人の Dr. Haller といふ名を冠して、この研究室を新しい方法で測定しています。

気生理に関する基礎的業績をたくさん出している世界的学者であり、このためヨーロッパやアメリカの他の大学を訪問する時間がなくなりました。心筋電生理解のメカニズムの三ヶ月の間にイギリス・アメリカから著名な学者が訪れ、興味ある講演を聞くことができました。私の研究の討論もできました。

十月から学生の講義・実習が始まり、キャンパスもにぎわってきました。スイスには七大学に医学部（うち二大学は基礎医学のみ）を持っており、毎年六〇名近い医師が誕生しています。このところ医学部志望の学生の増加が著しく、このため医師急増時代を迎えようとしています。医師の間では大きな問題となっていますが、政府はこれに對して今のところ対策も立てていないようです。学生も今この点に感銘を受けています。

第七十八回
医師国家試験合格者
昭和五十九年九月十三日、二十四日に行なわれた第七十八回医師国家試験に本学から四十名が受験し、十四名が合格しました。合格率は三三・五％であった。

合格者の研修先は（福大病院）	熊之細 透 鹿大麻酔科
研修生は科名のみ、左記のとおり。	生野 英祐 整形外科
	高橋 亨 麻酔科
	濱崎 寛 香川大整形外科
	安田 恵 眼科
	山下雄一郎 泌尿器科
	小野 広孝 放射線科
	浦池純一郎 耳鼻咽喉科
	近藤 孝 整形外科
	潤田 裕一 外科第一
	緒方利帆子 熊大麻酔科
	天野 修造 内科第二

第七回總會 日時 昭和59年7月25日(水) 午後2時半〜2時45分 場所 福岡大学医学部臨床大講堂 議事	1、報告事項 2、役員改選 3、58年度会計報告ならびに 59年度予算案 4、その他 第十一回例会 日時 昭和59年7月25日(水) 午後2時45分〜4時55分 場所 福岡大学医学部臨床大講堂 講演	1、整形外科学講師 花村達夫 「抗生剤の骨髄内投与に関する実験的研究」 司会 高岸直人教授	2、耳鼻咽喉科学(大学院生) 松田俊一	特別講演 1、微生物学教授 岡田秀親 「非特異的異物識別機序及びその異常に起因すると考えられる疾患についての考察」 司会 黒岩 中助教授
「聴性脳幹反応の頭皮上電位分布地図ならびに潜時分布地図について」 司会 曾田豊二教授 、内科学第一講師 小野順子	「脾島細胞の培養」 司会 奥村 恂教授	2、健康管理学助教授 守田則一 「米国に於ける在外研究のあれこれ」 司会 井上幹夫教授		

海外便り

カナダ・

トロントより

白日高歩

今年六月下旬にトロントに着いてすでに五月が経過しました。夏のカナダの美しさは想像していた以上に、美しい緑と空と湖がとて印象的でした。トロントの人口は約三〇〇万ですが、広大な土地の上に建設された近代都市であり、カナダの盟主的存在であったモンリオールを抜いて、現在は名実共にカナダ第一の都市となつてきています。

私は現在トロント大学の広大な敷地の一角にあるメディカル・サイエンス・ビルディングで研究活動を行なっていますが、大学には私の所属するトロント総合病院を始めとして、世界的に有名な小児病院、その他多数の附属病院があり、世界各国から多数の留学生がこつてくるという状態です。

解で楽しめよう。

私が、現在所属しているユニットは短期診断および治療ユニット (SDTU) で、十週間前後の入院で、個々の患者の診断と、治療および予後の方向を決定することです。

そのため、病棟全体が、治療的および社会的共同体であるという雰囲気がとても強く、できるだけ治療場面に患者個人が持つている現実的な面を出させようとしています。

時々、治療法や展開の中に、文化的な違いを感じることもあります。日本人患者ならどう反応するだろうかとか、チーム医療でのスタッフ間のコミュニケーションのちがいは、それぞれスタッフのアイデンティティと責任感の深さのちがいに由来するのか、文化的違いによるのかと考えます。

一例を、患者をまじえた、チーム医療の面から、紹介してみたいと思います。

SDTU は、さきに述べた方針からグループ療法主体のユニットです。ですから、グループのメンバーは他患者の症状や心の悩

み、発症の背景を知って行くように治療がすすめられて行きます。

新入院会議では、医師、ナース、ケース・ワーカーおよびソーシャル・ワーカーが出席して行われ、病歴の聴取、治療への動機、期待が明確化されるわけです。何でもないことのように、入院治療の妥当性を決める会議にシニア・ペイシエントを参加させているのがミソです。これは新入院予定患者にユニットでの治療構造とねらいを理解させる役割をしてサポートになるだけでなく、シニア・ペイシエントの患者としてのアイデンティティを高めようというものです。患者たちは、お互いの症状や心の悩み、発症の背景を話し合いながら、シェアードバックをくりかえします。

その中で、ある程度抵抗がとれ、自分、自分を幾度行なってきたか、結婚生活がいづから変化したか、あけくまには、父、兄弟、オジの近親相姦のことまで話していきます。このようにして、自分の病気の性質や原因についての理解を、知的であるにせ

ていこうでみかける学生は存在しません。私自身は外科の多くは実に勤勉に思われ、広い図書館内部は土曜、日曜日も男女学生でいつも満員です。彼らの多くは長い夏休中はアルバイトに精を出し勉学に打ちこむ事は少ないですが、学校が始まると猛然と勉強するの事です。その事実の是非はともかくとして私の研究室にも日本の医学生でいえば、二年目に相当する学生が、夏休暇中研究費をもらって実験の肺高血圧症にのりこんでいました。テーマは教授が与えていたが、彼自身のアイデアも取り入れてお、学生であつても有能で意志のある人間にはふんだんに研究費を使われ、彼らの意見に耳を傾ける自由な研究の雰囲気を感じさせられました。こちらに來まして臨床の分野にもいろいろと顔を出し学ぶべき多くのものを見る事ができました。種々のシステムが非常に能率的であり、無駄がないという印象を与えられました。例えば日本医学部内のようにナバー内科・外科制で、臨床例も、研究も重複してしまうのに、決して協力しあう事はないといった奇妙な矛盾、発症の背景を知って行くように治療がすすめられて行きます。

メニンガー・クリニックにて

堤 啓

メニンガー・クリニックにて

堤 啓

私の住んでいるトビカ (カンザス州) はさしずめ、田舎都市といつたところだ。カンザス州の首都ですが、さかしたところファンシーな場所はどこにもありません。先日、アメリカン・フットボールの試合を観に行きましたが、平均時速一〇〇キロ出して、車で一時間半のカンザス市まで行かねばなりません。今、こちらは冬に入つたばかりですが、毎朝、出勤前に車のフロント・ガラスのアイスをアイス・クレイバーでこすり取らねばならないので、ひと苦労します。

朝八時頃には出勤して、精神的な臨床活動、研究会、症例検討会などに参加しています。

こちらに來て二ヵ月半ですが、まだまだ苦労は多いですが、たえず、世界の水準を行つておられる西園教授のもとで十数年間きたえられたおかげで、こちらの臨床活動や研究会の内容がよく理

解で楽しめよう。

私が、現在所属しているユニットは短期診断および治療ユニット (SDTU) で、十週間前後の入院で、個々の患者の診断と、治療および予後の方向を決定することです。

そのため、病棟全体が、治療的および社会的共同体であるという雰囲気がとても強く、できるだけ治療場面に患者個人が持つている現実的な面を出させようとしています。

時々、治療法や展開の中に、文化的な違いを感じることもあります。日本人患者ならどう反応するだろうかとか、チーム医療でのスタッフ間のコミュニケーションのちがいは、それぞれスタッフのアイデンティティと責任感の深さのちがいに由来するのか、文化的違いによるのかと考えます。

一例を、患者をまじえた、チーム医療の面から、紹介してみたいと思います。

SDTU は、さきに述べた方針からグループ療法主体のユニットです。ですから、グループのメンバーは他患者の症状や心の悩

海外・国際学会研究発表

(発表者名: ①題目 ②学会名 ③開催地 ④年月日)

今永一成 (生理学第一)・広木忠行 (内科学第二)・M. Monoach: ①Electrically Induced Arrhythmias in a Small Piece of Right Ventricle in-vitro. ②11th International Congress of Electrophysiology. ③Caen, France. ④59. 7. 17~59. 7. 20.

黒岩 中・岡田秀親 (微生物学): ①Effects of Kampo Prescriptions on Immunity of Elderly People. ②第17回国際内科学会 ③京都 ④59. 10. 12.

岡田秀親・岡田則子 (微生物学): ①Increased Sensitivity of Tumor cells to Immune Cytolysis after Treatment with a Extract of Cridii Rhizoma. ②第17回国際内科学会 ③京都 ④59. 10. 12.

仲吉則雄 (衛生学): ①Relations of Health with Labour Work and Dietary Pattern among Farmers in Kyushu Reigion. ②The 9th International Congress of Agricultural Medicine and Rural Health. ③ニュージーランド ④59. 9. 13.

重松峻夫 (公衆衛生学): ①Problems in Cancer Registration-Funds and Staffing. ②1984年国際がん登録学会 ③福岡 ④59. 9. 29.

永田武明・木村恒二郎・原 健二・影浦光義 (法医学): ①Detection of Fuel Components in Burned Bodies by GC/MS. ②21st The International Association of Forensic Toxicologists. ③イギリス ④59. 9. 13~59. 9. 17.

内藤説也・古原雅樹 (内科学第二): ①HLA Antigen Report-Bw46. The Strong Association of HLA-DR4 with Spherical Mesangial Dence Deposits in IgA Nephropathy. ②9th International Histocompatibility workshop and Conference. ③ミュンヘン, ウィーン ④59. 5. 7~59. 5. 15.

西園久昌 (精神医学): ①Cuture Revolution and Some Changes of Suitable Psychotherapy in Modern JAPAN. ②3rd Pacific Congress of Psychiatry. ③韓国 ④59. 5. 14~59. 5. 18.

西園久昌 (精神医学): ①Education and Training in Psychiatry in Japan. Psycho-pharmacotherapy, How and What to Teach. Psychotherapy, Counselling, How and What to Teach. Lefal Aspects of Psychiatry, How and What to Teach. ②National Workshop on Mental Health Training in Primary Health Care.

③Hunan Medical College, Changsha, Hunan, P. R. C. ④59. 5. 28~59. 6. 6.

小田禎一 (小児科学): ①Effect of Coenzyme Q10 on the Abnormal Myocardial Performance in Patients with Mitral Value Prolapse and with Symptoms. ②世界炎症学会シンポジウム ③イタリア ④59. 4. 12~59. 4. 21.

小田禎一 (小児科学): ①Coenzyme Q10 in Cardiology. ②コエンザイム Q10 セミナー ③イタリア ④59. 10. 19~59. 10. 27.

五十君裕玄・浅川昌平・志村秀彦 (外科学第一): ①Cooperative Effect of Micelles and Bilayers for Dissolving Cholesterol Gallstones in Bile. ②85th American Gastroenterological Association (USA) ③アメリカ ④59. 5. 20~59. 5. 23.

五十君裕玄・渡辺大介・志村秀彦 (外科学第一): ①Contribution of Solution Viscosity for Dissolution Rate of Cholesterol Gallstone. ②85th American Gastroenterological Association (USA) ③アメリカ ④59. 5. 20~59. 5. 23.

五十君裕玄・浅川昌平・片岡厚生・志村秀彦 (外科学第一): ①Bile Salt Micelles, as Macromolecular Anions, Control Bile Concentration in Gallbladder. ②International Bile Acid Meeting. ③Berne ④59. 8. 31~59. 9. 2.

五十君裕玄・浅川昌平・西嶋里美・志村秀彦 (外科学第一): ①Physicochemical Structures of Urso. and Cheno. Rich Biles. ②International Association for The Study of the Liver. ③Berne ④59. 9. 3~59. 9. 4.

五十君裕玄・渡辺大介・浅川昌平・志村秀彦 (外科学第一): ①Development of New Gallstone Dissolution Agent Using through an Endoscopically Placed Nasobiliary Catheter. ②8th World Congress of the Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae. ③アムステルダム ④59. 9. 11~59. 9. 14.

五十君裕玄・浅川昌平・志村秀彦 (外科学第一): ①Lecithin Plays the Major Role in UDC Rich Bile in Dissolving Cholesterol Gallstones. ②XII International Gastroenterology. ③リスボン ④59. 9. 16~59. 9. 22.

犬塚貞光 (外科学第二): ①Hand Sewn or Stapled Technique for Esophagojejunostomy After Roral Gastrectomy with Inverted Single-Line-All-Layer Suture. ②8th World Congress of the Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae. ③オランダ ④59. 9. 11~59. 9. 14.

高岸直人 (整形外科): ①肩関節腱板断裂の新しい診断

治療法 ②第16回国際整形災害外科学会, 臨床部門 (SICOT) ③イギリス ④59. 9. 28~59. 10. 5.

葉 山泉 (整形外科): ①Clinical Pharmacokinetics of Intraarterial Antibiotics and Anticancer Agents. ②第16回国際整形災害外科学会, 基礎部門 (SIROT) ③イギリス ④59. 9. 28~59. 10. 5.

岩崎敬雄 (整形外科): ①老人性骨粗鬆症における ビタミンD結合蛋白の研究 ②第16回国際整形災害外科学会 基礎部門 (SIROT) ③イギリス ④59. 9. 28~59. 10. 5.

花村達夫 (整形外科): ①Experimental Study of the Coated Gentamicin Tablets for Located Anti-Biotic Therapy. ②第16回国際整形災害外科学会, 基礎部門 (SIROT) ③イギリス ④59. 9. 28~59. 10. 5.

磯田美登里 (皮膚科学): ①コラーゲン由来 ペプチドの好酸球遊走活性 ②Skin Pharmacology Society. ③ロンドン ④59. 8. 5.

金岡 毅・田口 星・清水 博・白川光一 (産婦人科学): ①Presental Management of Severe EPH Gestosis. ②IVth World Congress of the International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy. ③オランダ ④59. 6. 19.

金岡 毅・田口 星・白川光一 (産婦人科学): ①Prenatal Diagnosis and Treatments of Intrauterine Frowth Retardation in EPH-Gestosis. ②XVth Congress of the Society of Pathophysiology of Pregnancy. ③西ドイツ ④59. 6. 17.

金岡 毅・田口 星・清水 博・白川光一 (産婦人科学): ①Fetal and Neonatal Metabolism during Anoxia and Acidosis. ②IX th European Congress of Perinatal Medicine. ③イタリア ④59. 9. 3.

大島健司 (眼科学): ①硝子体手術について ③中国 ④59. 9. 5~59. 9. 18.

檀健二郎 (麻酔科学): ①10 years' Results of Nerve Block Therapy on 1,000 Patients with Herpes Zostea. ②First International Symposium "Pain Clinic". ③オランダ ④59. 5. 31~59. 6. 1.

檀健二郎・比嘉和夫・野田万里 (麻酔科学): ①10 years' Results of Nerve Block Therapy for Herpetic Pain. ②IV th World Congress on Pain. ③アメリカ ④59. 8. 31~59. 9. 5.

井上幹夫・吉田 豊・久保明良・笹川 力・遠山隆夫・下山 (健康管理学): ①Studies on the Diverticular Disease of the Colon in Japan. ②7th Asian Pacific Congress of Castro Enterology. ③インドネシア ④59. 9. 2~59. 9. 6.

